

2023 年 6 月 9 日
2024 年 2 月 28 日改訂
2026 年 7 月 8 日改訂

教職員の皆さんへ

授業における生成 AI の利用に関するガイドライン（教職員向け）
（旧：Chat GPT など生成系 AI の利用について）

教務部長 小寺敦之
事務部長 原田信也

本学では、2023 年 6 月 9 日に「Chat GPT など生成系 AI の利用について」を学生および教職員向けに配信し、2023 年 7 月 21 日に「東洋英和女学院大学における生成系 AI の使用に関する指針」を学内外に公表しましたが、このたび、学内での議論を踏まえ、上記を大幅に改訂した新たなガイドラインを学生に配信しました。

本ガイドラインは、教職員が、学生の課題提供や生成 AI 利用について認識しておくべきことを述べたものです。学生向けガイドラインを参照の上、その差分としてお読みください。

前提として、生成 AI を学生が利用することを止めることはできません。また、学生の課題について、本人の能力によるものか、生成 AI の利用能力によるものかを正しく見極めることも困難です。そのため、課題の出し方に注意しないと、学生の能力を過大評価してしまう可能性があります。以下では、そのような学生の課題の評価を誤ることを防ぐための方略の例、および教員が生成 AI と関わる注意点を示しています。

1. 課題の出し方と指示の方法について

生成 AI を用いると、簡単な課題、レポート、プレゼンテーションスライドなどを自動生成させることができます。教員が出す課題文を貼り付ける、あるいはスマホで撮影するだけでほぼ解答が自動生成されてきます。

- ①数学や統計の計算問題は、すぐに正解が生成されます。途中式も生成されます。
- ②歴史的事実などを問う問題も、すぐに解答ができます。
- ③要約、感想文も容易に生成されてきます。文字数・文体も指示通り生成されます。
- ④英語の翻訳、日本語の英訳も一瞬で生成、全世界語へ相互翻訳は瞬時に可能です。
- ⑤資料や論文の要約、考察も一瞬で生成されます。感想文も書いてくれます。
- ⑥輪読の発表も、プレゼンテーション資料だけでなく、話す原稿も自動生成されます。
- ⑦卒業論文も、テーマを与えるだけで、自動生成されます。文字数指定でも、その通り生成されます。参考文献リストも自動生成されます。
- ⑧デジタルで表現できる制作物（デザイン、画像、映像、Web サイトなど）も一瞬で生成できます。

知識を問う問題、資料をまとめる課題は、生成 AI の得意分野と言えます。このような課題では、AI を使いこなせる学生が高評価を得るだけになり、学生の能力や努力を適切に評価す

ることができません。

したがって、進化した生成 AI を、学生が無料で安易に利用できることを前提にした課題設計を行う必要があります。

(1) まず、授業を担当する教員は、課題等を課す際に生成 AI 利用の可否や利用できる範囲を学生に明示してください。使用を認めない場合は、課題を出す際に「生成 AI の利用は一切認めません」とはっきり明記してください。

授業開始前に、どのようなパターンや解答が生成 AI を使用したかという判定基準を教員側が明確に示し、学生側にもきちんと理解をさせておくことも重要です。

(2) レポートや論文の作成に生成 AI の利用を認める場合には、生成 AI を利用した旨や利用した生成 AI の種類・箇所等を記載させるようにしてください。これは生成 AI を積極利用させるためには重要なことです。実質的に利用を止めることはできませんので、ルールを守るよう指導してください。

(3) 生成 AI の利用を認めない場合は、生成 AI 対応できないような課題を考えてください。

(4) 生成 AI で可能な成果のみで成績評価を行うことはできるだけ避けてください。

2. 生成 AI が利用しにくい課題の例

(1) 「本日の授業内容を要約し、さらに自分の意見を述べてください」

デジタル化されたデータがない限り、生成 AI を利用することはできません。仮に最終結果を生成 AI が出力したとしても、生成 AI に与えるデータを自分でつくるという過程で復習をさせることができます。

(2) 「授業で視聴した映像について要約して感想を書いてください」

同じく、デジタル化された元データがない限り生成 AI は利用できません。この際、授業で見せる映像は Youtube 等にはない、教員が用意したオリジナルもしくは入手困難なデジタル化されていない映像を使用する必要があります。

(3) 授業内で制限時間を設け「他者の意見を聞いた上で自分の考えをレポートにまとめる」
教員がきちんと全体を監視する必要がありますが、自分一人で完結しない課題などを提示することで、利用を防ぐことができます。

(4) レポートや資料の作成過程（メモ書きや下書き）を提出させる

生成 AI は、作成の過程を飛ばして結果を生成します。その作成過程を手書きなどにして、提出させることで生成 AI の利用ができなくなります。

(5) 今まで以上にアナログ化する

安易に提出物・レポートのみでの成績評価を行わず、生成 AI を用いた不正が生じにくい手段を併用するといった対応をとることで、生成 AI の利用を回避できます。

筆記試験以外にも、以下のような対策が考えられます。

- ①教室でレポート課題を（手書きで）書かせる。オンデマンド授業でも提出物は、手書きを撮影させて提出させる（生成 AI の結果を書き写す可能性もありますが、その過程で学習が行われます）。
- ②プレゼンテーションをさせる。生成 AI でプレゼンテーション資料は安易に生成可能ですが、原稿やスマホ等を読むことを禁止してください。そうすれば、仮にスライドが AI 作とはいえ、学生の学習につながります。
- ③ディスカッションをさせ、その内容を評価する。
- ④教室以外の場所での発見や調査を時間制限を設けて行わせ、まとめさせる。
- ⑤物理的なモノを作成させる。英語を使った紙芝居、箱庭で使うための道具、幼児教育に必要なおもちゃなど。

3. 生成 AI を利用することを前提とした課題の例

（１）～（３）は、生成 AI を用いることを課題に組み込んでおり、その作業過程が学習となりえます。また、複数の生成 AI に関する活用と比較検討、それに対する意見を記述では学生自身の思考も促すことができます。

（１）「あるテーマについて、生成 AI での解答例を示してください。そして、それに対する反論を生成させてください。そして、両者を比較検討した自分なりの結論を述べてください。利用した生成 AI の名称と、プロンプト文を全部記載してください」

（２）「与えられた PDF 資料に対する反論と疑問を、生成 AI を使って作成してください。利用した生成 AI の名称と、プロンプト文を全部記載してください」

（３）「与えられた PDF 資料に対する感想を 3 つ以上の生成 AI（例：ChatGPT、Gemini、Claude など）を使い作成してください。その中で自分自身が一番共感する内容と一番否定的な内容を選択し、その理由を記載してください。また、それぞれの生成内容の違いもまとめてください」

（４）Google NotebookLM に教員が資料を登録し、それを Google Classroom で学生に提供。問題集を NotebookLM で自動生成させ、学生に解答させる。学生の点数は教員にフィードバックされる。

NotebookLM は、Classroom と連動されるようにできています。学生が資料を登録して新規に作成せずとも、教員が提供して、その資料との対話を学生に提供することができます。

（５）ゼミの場合、生成 AI でプレゼンテーションを作成することを段階的に許可します。

- ①まずは PowerPoint 等で 1 から作成してプレゼンテーションさせる。これが十分できるようになるまでトレーニングさせる。
- ②生成 AI による図表イラストの使用を許可する。
- ③生成 AI で生成させたいいくつかのページのみを使用許可し、差分は自分で作成することを

条件とする。

- ④最終的に全部生成 AI のみで作成させることを許可するが、発表はあくまで自分で話させる。

(6) 学生側に高難易度な学習や成果を求める場合の課題については、事前にその内容を教員が説明し、その内容を課題として提出する過程でまずは生成 AI で結果を出させて、学習を直感的に表現させ、その後に、再度教員が内容を理解させるという方法もあります。

例えば、情報に関する授業などで、プログラミングをさせる場合などでは、直感的な理解をさせたあとに反復させることで、学習を停滞させず、理解を相乗的に行うことができます。

4. 生成 AI を使ったと思われた際の注意点

教員側としては、生成 AI のパターンや記述方法、対象学生の日頃提出するレポート内容の書き方や言葉遣いなどから生成 AI を使用したかどうかを判断してしまいがちですが、生成 AI を使ったことを 100%証明することは現状として難しいです。その点をぜひご理解ください（生成 AI チェッカーは多く存在しますが、100%でない限り、1%でも本人が純粋に記述した可能性があり、もしそのような場合は教員側がリスクを負います）。

レポート課題などを出す場合には、生成 AI で教員側が一度回答を出しておき、どのようなパターンが生成 AI の解答だと思われるかを認識し、その傾向や内容を学生に示しておくことも有効です。学生が単にプロンプトに指示をだすだけでは解答を得られなくなるため、生成 AI の形式的な解答例や傾向を把握するだけでも抑止力になる可能性があります（ただし、その解答事例を熟知した上で、学生がより高度な生成を行う可能性もあります）。

例外としては、プロンプトインジェクションと呼ばれる、課題内容の文中に背景色と同じ色（多くが白色の白字）で、生成内容をある一定の方向へ誘導し、生成 AI を使用したことを確認する方法があります。しかし、この手法については、発覚後に学生側から倫理的な指摘を受ける可能性が大いにあるため、注意が必要です。

5. 個人情報・機密情報の扱い

- ①生成 AI に個人情報や機密情報等を入力しないでください。
- ②生成 AI では利用者が入力した内容が学習データに用いられ、それらが別の回答等で使用され、情報流出につながる恐れがあります。
- ③生成 AI の種類によっては、入力内容を生成 AI の学習に使用させないよう設定（オプトアウト）することができますが、その場合でも入力内容は一定期間保存されます。
- ④利用する生成 AI の利用規約等で入力内容がどのように使用されるかを確認してください。
- ⑤ただし、オプトアウトは完全ではありません。「学習しない」「公開しない」という言葉を信じてはいけません。AI のプロンプトに入れた情報は、永遠にネットの世界になにかしらの形で残るという認識は持っておいてください。そのため、他人に知られたくない情報は、AI に限らずネットには書き込まないのが原則です。

6. 著作権への留意

- ①生成 AI による生成物には著作権を侵害する内容が含まれることがあります。これを用いると意図せずとも剽窃にあたる可能性があります。
- ②生成 AI の利用に伴って生じた不利益や損害等には、利用者本人が責任をもって対応しなければなりません。リスクを正しく理解するように努めてください。

7. 情報の信頼性の確認

- ①生成 AI による生成物には虚偽が含まれている場合やバイアスがかかっている場合があります。
- ②出力された内容が信頼できるものであるのか、利用者が根拠を確認してください。
- ③出力された内容が偏った価値観による内容や差別的内容になっていないかを確認してください。

8. 生成 AI への理解を深める必要性

- ①生成 AI を効果的に利用するためには、生成 AI の問題点や限界を理解し、生成 AI を効果的かつ適切に利用するためのリテラシーを身につけることが大切です。
- ②この分野は発展途上です。教職員全員が常日頃、最新の情報収集に努め、本学への教育応用・改善を考察してください。
- ③生成 AI を使わせないことだけを考えるのではなく、どうしたら生成 AI を活用して、より高度な学習を提供できるのかを、教員一人一人が考え、活用することを模索することも大切です。
- ④教職員同士、生成 AI の活用事例や困ったことを共有していきましょう。

生成 AI については今後も様々な状況の変化が生じることが予想されます。それに応じて「本学指針」や本ガイドラインにも変更が生じる可能性があります。変更が生じた場合は、その都度お知らせします。

以上